

(別紙様式2)

## 学生等評価の改善状況報告書

平成 27 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

工学研究科長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成 24 年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成 26 年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
1 : 講義室を増室することにより、各学科における時間割作成時の自由度を増やす。 2 : カリキュラムを意識した時間割作成を行う。
実施時期 (予定を含む) : 来年度以降
改善状況
1 : 工学部改組に伴い学科の定員が変化して、特に 150 名規模の教室の不足が深刻化していた。そこで、5 号館の 5-11、5-21、5-24 教室の 150 人定員の講義室への改修を実施した。また、S-port が完成し、二つの会議室や CALL 教室が設置されたので、授業等でも利用可能となった。 2 : 時間割作成に関してカリキュラムを考慮し、必修科目の再履修等に支障がないよう最大限の配慮を行っているがなかなか十分ではない。学部改組のために複数のカリキュラムが並行していることもあり改善を続ける。
達成年度 (予定を含む)
平成 28 年度

改善事項
学部生の英語教育
改善計画
<p>1：各学科で必要とされる英語を吟味するとともに、学科教員の意見が反映されるような仕組みを作る。</p> <p>実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討</p>
改善状況
<p>1：改組に伴うカリキュラム改訂で新たに開講されるアカデミックイングリッシュ等の各学科の授業で積極的にe-ラーニングを導入することを決定した。専門英語に加えTOEIC対策についても対応できるようにした。また、放課後英語教室を開講し周知した。</p>
達成年度（予定を含む）
平成27年度

改善事項
学部生の国際的視野（異分野理解・グローバルな問題の理解）
改善計画
<p>1：海外の研究室との交流（SSSV活動、3年目）をさらに充実させることで、日本人学生の国際化に努める。（本年度からは学部学生に単位「海外研修（2単位）」が認定される。）</p> <p>2：国際交流センターと協力して、日本人学生が外国人留学生と交流できるような場を提供する。</p> <p>3：国際経験豊かな教員たちによるプロジェクトを立ち上げ、海外派遣を促すためのイベントの企画・実行や授業改善などを試みる。</p> <p>実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討</p>
改善状況
<p>1：ABPとも連携させて、海外の研究室との交流（SSSV活動、4年目）をさらに充実させることで、日本人学生の国際化に努める。昨年度からは学部学生に単位「海外研修（2単位）」が認定されるように規則整備も行った。</p> <p>2：留学生に対する日本人学生のチューター制度の実施要項を定め、同制度がより有</p>

効に機能するしくみを策定し、実施した。
3 : 国際経験豊かな教員たちによる学生の海外派遣促進プロジェクトについて検討を続けている。
達成年度 (予定を含む)
平成28年度

改善事項
学部生のリーダーシップ
改善計画
<p>1 : 実験・演習等でのグループ活動を通じてリーダーシップの重要性を認識させる。</p> <p>2 : キャリア形成ガイダンス等で、リーダーシップについて考える時間を設ける。</p> <p>3 : 学校ボランティア活動等への参加などを、学生に促す。</p> <p>実施時期 (予定を含む) : 一部実施中 来年度以降に改善を検討</p>
改善状況
<p>1 : 実験・演習等でのグループ活動を通じてリーダーシップの重要性を認識させることを試みている。特に工学部1年生全員の必修授業である「創造教育実習」では、5学科の学生の混成チームを作ってロボットを作り上げる経験を積ませることで、リーダーシップの重要性を実感させている。</p> <p>2 : キャリア形成ガイダンスや就職指導等で、リーダーシップについて考えさせる機会を与えた。</p> <p>3 : ABPとも関連して外国人学生との交流や支援のサークルに対してや、ものづくりサークルに参加することを推奨すると共に、財政的な支援を行っている。</p>
達成年度 (予定を含む)
平成28年度

改善事項
大学院生の英語教育
改善計画

<p>1 : 国際学会における発表を奨励する。</p> <p>2 : 講義中に当該分野で重要な英語の話題を盛り込むように教育方法を改善する。</p> <p>実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討</p>
改善状況
<p>1 : 国際学会における発表を奨励するために、国際学会発表件数を奨学金返還免除選考に取り入れている。また SSSV がインターンシップの単位として認められ、加えて海外大学交流支援事業が立ち上がっている。この様に学生に国際学会発表を推奨しているが、学生がそれをしり込みしている実態は否めない。その最大の理由は、英語力の不足なので e-ラーニング等の活用による自主的な英語力向上を強く推奨している。</p> <p>2 : 国際化の推進とグローバル教育を目的にアジアブリッジプログラム（ABP）」が文部科学省に認められその準備を進めている。修士課程では、英語対応の授業だけで卒業できる英語教育コースを行うための講義課目を整備した。工学研究科では、国際化推進と上記プロジェクトの一環として、「各専攻に1名の外国人教員の採用（合計5名）」ができるように選考を行っており、1名が着任、2名が決定、2名が選考中である。</p>
達成年度（予定を含む）
平成27年度

改善事項
大学院生の専門的職業人に必要な高い能力
改善計画
<p>1 : 講義内容を吟味する。</p> <p>2 : 研究において学生に作業を指示するだけでなく、自ら進んで考える機会を与え自発性を促す。</p> <p>実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討</p>
改善状況
<p>1 : シラバスの整備やカリキュラムの見直しなどを行った。柔軟で幅広い知識を持ったエンジニアになる為の副専攻制度も実質的に活用されるようになるように整備中である。</p> <p>2 : 各研究室で、自ら進んで考え自主的に研究が推進していけるように研究指導が行な</p>

われている。その成果は学会や国際会議等で発表させるなど積極的な研究活動を行った。

達成年度（予定を含む）

平成28年度

改善事項

教職の学級・学校のマネジメント能力

改善計画

- 1：教育実習の際に必要な心構えを、講義内でも繰り返し伝える。
- 2：もの作り支援等、学校現場の教育活動への参加を通して、知識やスキルを一層高めるための指導を行う。

実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討

改善状況

- 1：教育実習の際に必要な心構え等を教育する講義科目の新設を計画している。
- 2：工学部では教職をとる学生の割合が低く教育活動への参加への意欲・機会共に乏しいが、数理システム工学科では数学の免許を取る事も可能となったので、今後教職希望者が増加することも考えられるので、その為の方策を検討していく。

達成年度（予定を含む）

平成29年度

改善事項

進路支援

改善計画

- 1：学生からわかりやすい形で窓口の一元化を行うとともに、専門職員を適切に配置する。

実施時期（予定を含む）：来年度以降

改善状況

- 1：就職支援課と共同で、工学部・工学研究科学生のインターンシップ窓口の一本化を実施した。これによって、インターンシップ受け入れ企業との連絡がスムーズとなり、全ての学科・専攻の学生に対して同等にインターンシップの機会を提供することができ

るようになった。また、全学科・専攻の就職担当者が学生に対する就職指導について協議する機会を設け、工学部・工学研究科内での進路支援がスムーズにできる体制を作った。

達成年度（予定を含む）

平成26年度